

旧太田家は平成2（1990）年7月29日、裏山から打ち上げられた花火が原因の火災で焼損しましたが、幸いなことに主要な建築部材は焼け残りました。再用不能な柱や梁は組み立て状態で、その他の部材は分解した状態で収蔵庫（焼損小屋）内に保存しています。写真はその内部です。



当園では毎年7月末、11時30分から12時までと13時30分から14時までの2回保存材収蔵庫内部の一般公開と、ビジターセンターの2階で10時30分から11時30分まで、旧太田家焼損復旧工事記録の上映を行っていました。これらの行事に「炉端の会」は保存材収蔵庫内部の一般公開では来客のガイドを、また焼損復旧工事記録の上映では受付を行って園に協力しています。

平成25（2013）年度までは1月26日の「文化財防火デー」に実施していましたが、翌年度から日程を7月末に移しました。因みに「文化財防火デー」は昭和24（1949）年1月26日、現存する世界最古の木造建造物である「法隆寺の金堂」が炎上し、壁画が焼損したことに基づいて制定されました。

旧太田家の焼損材の組立保存は、焼損文化財（建築）保存としては日本では法隆寺金堂に次いで2例目との事です。

また以下は平成24（2012）年1月26日に作田家で行われた消防訓練の写真です。



（編集委員 11期 木曜 長谷川）